

令和2年度第2回野田市総合教育会議会議録

- ◇日 時 令和3年2月17日（水）午後3時10分開会 午後3時43分閉会
- ◇場 所 野田市役所低層棟4階 委員会室
- ◇出席委員 鈴木有市長 佐藤裕教育長 高橋保教育委員 伊藤稔教育委員 飯田芳彦教育委員 永瀬大教育委員
- ◇説明職員 山下敏也教育次長（兼）生涯学習部長 戸塚進教育総務課長 安藤剛行生涯学習課長 峯崎光春生涯学習課長補佐
- ◇書 記 鈴木一敏教育総務課長補佐（兼）庶務係長

◇議事日程

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 議 題
(1) 野田市鈴木貫太郎記念館の再建について
- 5 そ の 他
- 6 閉 会

◎戸塚教育総務課長

本日はお忙しい中、御臨席を賜りまして誠にありがとうございます。本日、司会を務めさせていただきます教育総務課の戸塚です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

本日の会議資料は、会議次第、資料1 鈴木貫太郎記念館の概要及び鈴木貫太郎記念館のパンフレットでございます。資料等に不備等がございましたらお申し付けください。

本日の会議につきまして申し上げます。総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第6項の規定により、個人の秘密を保つため必要があると認めるとき、又は会議の公正が害されるおそれがあると認めるとき、その他公益上必要があると認めるときを除いては、公開することが原則であります。市民の皆様に周知するため、市ホームページに開催予定を掲載しております。会議の傍聴は、先着5名とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

なお、現時点での傍聴の申込みはございませんが、会議の途中で傍聴希望があった場合には入室をいただくこととなりますので、御了承願います。

また、本日の会議は、議事録作成のため、録音機を使用させていただきますので、あらかじめ御了承ください。

会議資料及び議事録は、市役所及び閑宿支所の行政資料コーナーに配置し、閲覧できるようにしますとともに、ホームページ上で公開いたします。

ここで、出席者について御報告いたします。本日の会議に出席されているのは、鈴木市長、佐藤教育長、高橋教育委員、伊藤教育委員、飯田教育委員、永瀬教育委員でございます。

これより、令和2年度第2回野田市総合教育会議を開会いたします。

初めに、鈴木市長より御挨拶をいただきます。

◎鈴木市長

皆様、お疲れさまでございます。本日は、令和2年度第2回の総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。また、引き続きの会議で大変お疲れさまでございます。

本日の会議は、台風による雨漏りや耐震診断の結果、現在、臨時休館となっております「野田市鈴木貫太郎記念館の再建について」を議題とし、私の考えを説明させていただき、教育委員の皆様方からの御意見をいただきたいと考えておりますので、野田市の教育の振興のため、活発な意見交換をしたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

◎戸塚教育総務課長

ありがとうございました。

続きまして、佐藤教育長より御挨拶をいただきます。

◎佐藤教育長

改めまして、皆さんこんにちは。本日は、「野田市鈴木貫太郎記念館の再建について」を議題としております。この会議において、郷土の偉人である鈴木貫太郎の生涯や功績を広く伝えていくため、記念館の早期再開に向け、市長さんと意見交換を十分にやりたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

◎戸塚教育総務課長

ありがとうございました。

これより議題に入りますが、当会議の議長は、野田市総合教育会議運営要項第2条第1項の規定に基づき、鈴木市長にお願いいたします。

市長、よろしくお願い申し上げます。

◎議長：鈴木市長

それでは、早速議題に入らせていただきます。

「野田市鈴木貫太郎記念館の再建について」でございますが、まず、事務局からこれまでの状況を説明して、その後に私の考えを御説明させていただきます。その後に意見交換をしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、事務局より説明願います。

◎山下生涯学習部長

鈴木貫太郎記念館の現状等について御説明させていただきます。

鈴木貫太郎記念館につきましては、令和元年の台風19号の影響によりまして、屋根から雨漏りがして浸水をしたということで、現在、臨時休館とさせていただいているところでございます。同記念館は、昭和38年の開館で施設が老朽化していることから、再開に向けて大規模改修を行うべく耐震診断を実施したところでございます。耐震診断の結果につきましては、昨年の6月に判明しまして、その結果、記念館のコンクリート強度が著しく低いこと、また、補強が困難であるとの結果となったところでございます。そのため、今後、地元の意向も確認しつつ、記念館の整備の方向性を慎重に検討していくこととしたいと考えております。

また、昨年9月には、地元の「関宿を語る会」から、新たな鈴木貫太郎記念館の早期開館に関する請願もいただいているところでございます。

これらを踏まえまして、記念館につきましては、建て替えや民間を含みます既存施設の活用など、地元の意向も確認しつつ、あらゆる方向から再開を検討していくとして、具体的には、戦後80年に当たります令和7年の開館を目標に、整備基本構想の策定や整備候補地の選定、クラウドファンディングによります寄附を活用した建設費用の一部捻出などを行ってまいりたいと考えております。しかしながら、極めて厳しい財政状況の中、単独で建設費用を確保するのは難しいことから、補助金の活用、また、国への働きかけを行いつつ、令和3年度に地元の方や有識者等によります検討委員会を立ち上げ、建設について御検討いただきたいと考えておりました。建設場所につきましても、貫太郎翁が晩年を過ごしました関宿にあることに意義があると考えておりますので、地元の意向も確認しつつ、関宿の中で候補地を選定してまいりたいという考えを令和2年12月議会において表明しているところでございます。

なお、現在の記念館でございますけれども、引き続き臨時休館としていただいておりますが、日々来館者はおりまして、その際、副館長がロビーでの映像資料公開、また、庭園の見学、解説を行っているところでございます。

以上でございます。

◎鈴木市長

それでは、私の考えていることを、今そちらの方から説明があったことと重複しますが、再建について私の考えを説明させていただきます。

鈴木貫太郎は、第42代内閣総理大臣を務め、日本を終戦に導き、日本の平和のために力を尽くした郷土の偉人でございます。終戦後は関宿に帰り、地域の農家の子息たちを集めて酪農振興を目指す「農事研究会」を作るなど、地元のために力を尽くしました。終戦後に関宿で過ごした期間は3年間に満たず短いものでございますが、貫太郎翁は地元の英雄として現在も慕われております。一方、旧野田市の地域では、そもそも鈴木貫太郎のことが、まだあまり理解されていないのではないかと感じております。私は、常々、未来を担う子供たちの郷土愛を育み、子供たちの意見を市政に反映させていきたいと申

し上げております。子供たちの郷土愛を育むためには、野田市の歴史や自然など、野田市の良さを子供たちが知ることによって、郷土への誇りや愛着が芽生えてくるものと考えております。

今回、記念館の耐震補強が困難であるとされたことは大変残念ではありますが、何としても早く、きちんとした記念館を作り、再開をしていきたい。これは地元からも要望が出されておりますが、私としても市政の重要課題であると考えております。

再建するためには当然予算が必要であり、財源確保が大きな課題となってまいります。そこで、国への補助金等の働きかけを行ってまいりたい。また、財源だけでなく、市長である私が記念館の再建に向けて、今後の陣頭指揮を執ってまいりたいと考えております。そのために、鈴木貫太郎記念館の所管を教育委員会から市長部局へ移管をしたい。ただ、記念館の管理運営につきましては、教育委員会へ委任をさせていただき、これまでどおり行っていただきたいと考えているところでございます。市長部局へ移管することによって、財源だけでなく整備基本構想の策定等、記念館の再建について全般的に私に関わり、リーダーシップを持って取り組んでまいります。また、市の観光施策と一体的に取り組むことができ、市の魅力発信にも大いに効果があると考えております。

具体的には、鈴木貫太郎記念館は博物館法に基づく博物館ではないため、法律上は教育委員会が所管しなければならない施設ではありません。そこで3月議会に、鈴木貫太郎記念館の設置及び管理に関する条例の改正案を提出させていただき、同館を市長の所管とします。その上で、記念館の管理は、地方自治法第180条の2の規定に基づき市長と教育委員会と協議した上で、これまでどおり教育委員会が行う事務として委任をさせていただきたいと考えております。

また、条例の改正案については、議会上程前に、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第29条の規定に基づき教育委員会の御意見を聴く予定でございます。その前に、この方向性について、皆様方からの御質問や御意見を頂戴したいと考え、本日の議題として提案させていただきました。よろしく願いいたします。

◎議長：鈴木市長

それでは、何か委員の方から御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。

飯田委員。

◎飯田委員

市長の御意見を賜りまして、私の感想なのですけれども、鈴木貫太郎記念館を再建して再開することが、未来の子供たちの郷土愛を育むことや、地元からの強い思いが出ていること、さらには、市の観光施策と一体的に取り組むというような構想もあるということで、さらには、市長の御言葉をいただければ、リーダーシップを持ってやりたいというお話だったと思います。そのことにつきましては、財源のこともあろうかと思っておりますので、やはり市長さんがリーダーシップを執っていただくというのは、非常によろしいかなと思っています。つきましては、今後の鈴木貫太郎記念館の在り方について少しお話をいただければと思います。

以上です。

◎鈴木市長

在り方というか、その位置付けといいますか、鈴木貫太郎翁は、合併前までは関宿町の出身ということなのですけれども、野田市と平成15年に合併して、野田市出身の鈴木貫太郎という形になったということは、非常に野田としても、また、市民としても大きな誇りであって、ましてや大きなことを成し遂げた方、この貫太郎翁をもっともっと大切に、

後世に伝えなければいけない。これは、我々の使命だと思っています。

そんな中で、各小中学校を全部回って、必ず「鈴木貫太郎っていう名前を知っている人」って聞いています。すると、関宿地区の子供たちは手が上がるけれども、どうしても野田地区の子供たちは、手の上がりが少ないっていうところを考えたときに、やはり鈴木貫太郎翁の位置付けも必要なのかなということ。地域の偉人だということも学校教育にも取り入れていただきたいなという、その件については、少しずつやっていたいていますが、もっと本来はしなければいけないのではないかなと、私個人は思っています。鈴木貫太郎翁の偉業を称えるとともに、せっかく鈴木貫太郎記念会という財団法人が発足して、このメンバーを見たら、その当時、日本を動かした方々が名を連ねていて、地元でも名士、公ばかりじゃなくて、市の方々の民間企業ということ考えたときに、野田市だけでやるべきことではないという思い、正直その国会の方にも、地元選出議員の方にも働きかけをしております。たまたま麻生財務大臣が総理の時に野田市を訪れて、鈴木貫太郎記念館に来ていただいて、いろいろ説明した経緯があります。それこそ吉田茂総理大臣の書簡とかもありますし、また、「終焉の地」っていう石碑も吉田茂総理大臣の時か分かりませんが、石碑の書も書いていただいたということがありますから、そこへまず行こうかなという思いと、あと、千葉県知事も名前を連ねているというところもありますから、それこそ大きな範囲で、声掛けをしていかなければいけないなど。それだけのことをしていただいた方なので、我々地元の間がしっかりとした形で動かなくてはいけない。それには、私がリーダーシップを執るべきという思いがあって、今回はこういう形で議題とさせていただきます。

いずれにしても、実際、野田の人だということを知っているかということ、まだまだ少ないという。これは、逆に言ったら自分たちがちゃんとしなくてはいけないんだという強い思い、そういう意味で、しっかりとした形で再建をして、後世に伝えなければいけないということ。観光にもつながるといってもありますけども、位置付けとしてはかなり自分の中では高い位置にあると思っています。

よろしいですか。

◎飯田委員

はい。ありがとうございます。

◎議長：鈴木市長

ほかにございますか。

高橋委員。

◎高橋委員

先ほど市長さんの説明の中で、鈴木貫太郎記念館というのは、法律上は、教育委員会が所管しなければならぬものではないと。だから陣頭指揮を執って再建に動くために市長部局、市長さんの方に所管させてくれという話であったかと思います。それは分かったのですが、実際、管理事務を教育委員会に委任するという、この辺のところ、何か問題が生まれることはないでしょうか。その理由は何でしょうかということと、実際には、今は教育委員会の方で所管しているわけですが、その辺と違ってくるものというのは、何かあるのでしょうか。メリット、デメリット含めて教えていただければと思います。

◎鈴木市長

今、高橋委員がおっしゃったとおり、所管としては、この記念館は博物館法に基づく博物館ではないということですが、文部科学省の調査においては、博物館類似施設に分類

されている。現在、生涯学習課の学芸員が管理担当しておりまして、資料の収集であったり、保存、展示、調査研究、特別展の企画、また、学校への出前授業による平和教育、そして、小中学校の副読本の原稿作成等を行っているというところでございます。この点を含め、管理については引き続き、教育委員会が行うことが適切であると考えております。したがって、管理事務については、現在と変わるところはないというところでございます。デメリットというのは、逆はないのかなと。メリットとしては、教育委員会の所管だけだと、いろいろな面で市長部局でなくてはできないこと、観光事業についてとか、資金の調達方法についても、なかなか教育委員会だけでは難しい部分があるのかなと。市長部局に所管を移すことによって、広範囲にそれを広げることができると思います。

◎高橋委員

ありがとうございます。よろしく申し上げます。

◎議長：鈴木市長

ほかにございますか。

伊藤委員。

◎伊藤委員

鈴木貫太郎先生の記念館に私も何度か行ったことがあるのですがけれども、やはり数年前にも映画でリメイクされたとおり、江戸の最後に生まれて、明治、大正、昭和と、それに日本の激動期で終戦を取り持って、それを成立させたという意味で、平和教育に貢献できるというお話をして、まさにそのとおりで、地元の子供たちが鈴木貫太郎を知らないのは、手元暗がりも甚だしいなと思います。是非再建に向けての、これからの具体的なスケジュール等を教えていただきたいと思います。

◎鈴木市長

先ほど、部長の方からもお話がありましたが、地元の「関宿を語る会」の方から、戦後80年に当たる令和7年までに何とか新たな記念館を再開してくれないかという要望、請願が来ました。

これを受けまして、この4月に建設準備委員会を立ち上げたいと思っております。その中で基本構想の案を策定して、さらには、委員会での検討がまとまった段階で、仮称ではございますが、「野田市鈴木貫太郎記念館建設検討審議会」を立ち上げて、審議会には、観光協会、商工団体、酪農団体、そして、公募委員のほか、市議会の方からも参画をいただいで、令和7年の再開を目指してオール野田市ということで、記念館再整備の基本計画を策定していきたいと思っております。

◎伊藤委員

どうもありがとうございます。

◎議長：鈴木市長

ほかに。

永瀬委員。

◎永瀬委員

再建するに当たって、再建する場所は今の記念館と同じ場所なのか、また、違う場所なのかということと、財源の確保によるかもしれないのですが、せっかくでしたら、資料も多く飾って、規模も大きくしていただければと思うのですが、市長の腕にかかってきますけれども、どのようにお考えでしょうか。

◎鈴木市長

記念館の再建場所については、一番自然なのがやはり、貫太郎翁が生まれ育ったところ、また、終焉を迎えたところということで、今の記念館のすぐ前が母屋があった場所です。ですから、できればそこに建てたいということと、地元の人たちも今のところに建てていただきたいという意見が多いので、ただ、敷地的にどうなのか。というのは、今の記念館をそのまま残したいという気持ちもありますので、活用がなかなか構造上難しいのですけれども、せつかくの建物でかなり構造的に建物としても評価の高いものなので、それを壊さないでそのままというのと、空いているところというのと、なかなか大きな建物は難しいのかな。というのは、展示室というのもそうですけれども、収蔵する場所があまり離れていない方がいいと思うので、建物と一緒にということを考えときには、もう少し広くしたいというときに、あの敷地でどうかということ。候補としては、関宿小学校の跡地がすぐ隣ですから、そこも一つの選択肢になるのかな。この辺については、委員会や地元の方々の意向も踏まえて作りたい。いずれにしても、あの近辺には作っていきたいと思っています。

それと、建物の大きさ等についても、どの程度の展示をするのか、実際、今倉庫に眠っている資料等もかなり多くて、それも一つ一つ、正直な話、学芸員の方で見てもらっていますけれども、その出し方も、要はテーマを決めて、1個1個テーマごとに出すのかということと、通しで常時出しておくもの等あると思うのですが、その展示の数によっても展示スペースにどう置くのかということで、それを踏まえてしっかりと検討していきたいと思っています。

◎議長：鈴木市長

ほかにございますか。

高橋委員。

◎高橋委員

今、具体的にいろいろな話をお伺いしているわけなのですが、先ほどの話の中にもありましたように、財源の確保ということが非常に大きい。確かに今、いろいろなところでコロナ対策等で予算が使われているのを見ると、大変だと思います。当然市の予算だけで賄われる額ではないのかもしれない。そういうふうにと考えると、この財源確保について、市長さんはどのようにお考えになっているのか、その一端でも教えていただければと思います。

◎鈴木市長

先ほども少しお話させていただきましたけれど、やはりこの鈴木貫太郎記念館というのは博物館類似施設という位置付けなので、国の補助金というのは、なかなか充てるものがないというところがございます。しかしながら、日本の終戦を実現した偉人であるということを考えてときには、やはり国の方にもしっかりと助成してもらいたいという気持ちも多いです。そういう点でも、国の方への働きかけ、それと、今はやりのクラウドファンディング、これですと日本全国から寄附を募ることができるので、鈴木貫太郎というネームバリューを考えたときに、大阪の堺市も旧関宿藩で、お父さんがあちらで代官をしていたので、向こうで生まれたという経緯があるので、向こうは出生の地ということで、大きな石碑が堺市にある。そういう声掛けで、少しでもお金が生まれればいいということと、資料にも皆さんの手元にあると思いますけれども、かなりの企業から大きなお金を頂いている。今、高橋先生からもお話があったように、コロナ禍で、なかなか企業としてお金を出すことは難しいと思いますが、反面、やはり偉人に対してということを考えてときには、それなりの会社を回ってお願いすべきことを期待している。

いずれにしても、このお金が集まらないと、その先に行けない。やるのを前提に動いて、それと並行して金策に走るということ。それこそ国会議員の方にも言ってきました。あなたたちの先輩ですからということで。それだけ、もっともっと声を出していかないと、市民としてもなかなか実感が湧かない部分もあると思いますので、それも含めて、声を大にして宣伝することによって、この企業についても集まりやすいのかな。実際の話、キッコーマンから2,000万円、当時の2,000万円ですから、今だと億ですから、それだけ企業が協力していただける方だということで、そういう点でもしっかりやりたいと思っています。

◎議長：鈴木市長

教育長。

◎佐藤教育長

先ほどありましたように、道徳で小学校、中学校で副教本、副教材を作って、実際にやっているところです。ですが、まだまだ徹底できていない点がありますので、今後やっぱりそういうところに力を入れていきたい。また、小学校3年生は市内を学習する機会がありますから、是非そこを通過して、必ず1回見てくると。そういうところもまた、学校に投げかけていきたいと思います。何よりも図書室に、郷土の偉人コーナーというコーナーを設けて、特設で、しかも常設できるように、資料を整えるようにまた指導してまいりたいと思います。そういうことをしながら、郷土を愛する気持ちを育て、そして誇りに思えるような偉人がいるわけですので、その徹底を図っていきたいというふうに、改めて感じたところです。よろしくお願いします。

◎高橋委員

はい。ありがとうございます。よろしくお願いします。

◎鈴木市長

必ず小中学校を回っているときに鈴木貫太郎翁の話と関根金次郎名人の話をします。将棋をやる子は、分かってるかな、知ってるかなと思うと違う。藤井聡太って言うと必ず手が上がります。関根金次郎名人というのは野田の人なんだよと言うと、へーって言う。二川地区は、ある程度子供たちも分かるけれども、その辺も含めて、今教育長の方から、郷土の偉人ということでコーナーを作っていただくということ。これはもう大事なことであって、鈴木貫太郎ばかりでなくて、関根名人であったり、ほかの方々もいらっしゃいますので、そういう形で、野田市にはこういう人たちがいたんだという、自分たちの祖先なんだというところをしっかりと子供たちに教えていくことが必要だと思います。そういう形で委員会の方でもやっていただければ有り難いと思います。よろしくお願いします。

◎議長：鈴木市長

ほかにございますか。

ないようであれば、これで意見交換を終了させていただきます。教育委員の皆様には大変貴重な御意見ありがとうございました。

事務局の方から何かありますか。

事務局。

◎戸塚教育総務課長

第3回目の総合教育会議を3月に予定したいと考えております。

開催日時につきましては、改めて御連絡をさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

◎議長：鈴木市長

それでは、第3回は3月に予定ということでございます。
ほかに委員の方から意見、質問等ございますか。

(なしの声)

◎議長：鈴木市長

ないようでしたら、これもちまして第2回総合教育会議を終了いたします。
ありがとうございました。